

# 教育研究業績書

氏名 松長恵史

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表の年 月	発行所、発表 雑誌又は発表 学会等の名称	概 要	編者・著者名 (共著の場合のみ 記入)	該当 頁数
(著書) 1 『インドネシアの密』	単著	平成8年3月	博士論文	修士論文以降に新出した文献・図像資料を新たに考察に加え、インド亜大陸に残される密教遺跡・遺品を踏まえた上で、7世紀から14世紀に流布したと考えられるインドネシアの密教の性格を図像学的立場を中心に総合的に考察した。これまでほとんど研究者が手をつけていなかった海上ルートの密教流布形態に関して、多大なる成果をあげることが出来た。		366頁
(著書) 2 『密教大系』第二巻中国密教 「インドネシアの初期 仏教--漢訳資料を中心 として--」	共著	平成6年7月	法蔵館	『密教学報』30号に掲載した論文に再度考察を加え、中国正史や高僧伝等の史実に基づき、インドネシア諸島に流布した仏教の性格に考察を加え、これまであまり研究対象とされず、明確にされてなかった東南アジアの仏教事情が明らかになり、この地域の仏教研究に大きく寄与した。この考察により、その後密教が流布した時に、仏教が密教に与えた影響に関しても明らかとなった。	宮坂宥勝・松長有慶・頼富本宏	9頁
(著書) ③ 『聖なるものの形と場』 「インドネシア ジャワ島に現存する密 教遺跡の聖なる場」	共著	平成11年5月	春秋社	インドネシアへの密教の伝来、密教遺跡と遺品、密教文献、ジャワ島に流布した密教の性格の4つの項目に分け、ジャワ島における密教の性格についてまとめた。これらの考察により、インドネシアジャワ島には弘法大師空海が受法した密教と同性質の密教が流布し、「金胎両部」の思想の源泉が解明できた。	頼富本宏	12頁
(著書) 4 『インド密教』 「ジャ ワの密教」	共著	平成16年3月	法蔵館	ジャワ島には金剛界系および胎藏系の尊像配置を含む密教遺跡が多数確認できる。それらの中でジャワ島中部に現存するチャンディ・ボロブドゥールとチャンディ・ムンドゥーの尊像配置および建築プランを取り上げ、「金胎両部」の教理体系の可能性について考察した。また、空海の請来した日本密教が、ジャワで盛隆した密教と極めて高い類似性を持つことが確認できた。	立川武蔵・頼富本宏	20頁
(著書) 5 『新国訳大蔵経』イン ド撰述部 密教部4「一 字頂輪王経」	共著	平成16年3月	大蔵出版	胎藏系の図像資料に大きな影響を与えたとされる不空訳出の『菩提場所説一字頂輪王経』(5巻)の国訳をした。	松長有慶・頼富本宏・乾仁志・奥山直司・今井淨圓・高田良海・北尾隆心	143頁
(著書) ⑥ 『マンダラの諸相と文 化』上-金剛界の巻 頼富本宏博士還暦記念 論文集 「ジャワ島出 土の密教尊像の特徴」	共著	平成17年11月	法蔵館	ジャワ島を中心に出土した金剛界曼荼羅に代表される曼荼羅尊像群以外の集合体を形成する密教尊群に関して論じた。密教図像学に基づき、これらの尊像を文献資料と照合した結果、各尊像の像容表現は、各文献資料と極めてよく一致しており、インド密教の強い影響が確認できた。これらの貴重な密教集合尊に関する考察はこれまで行われておらず、ジャワ島に流布した密教の性格を知る大きな手がかりとなった。	頼富本宏	17頁

# 教育研究業績書

氏名 松長恵史

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表の年 月	発行所、発表 雑誌又は発表 学会等の名称	概 要	編者・著者名 (共著の場合のみ 記入)	該当 頁数
(論文) 1 「インドネシアの初期 仏教—漢訳資料を中心 として—」		平成3年3月	『密教学報』 30号 (査読有)	インドネシアジャワ島およびスマトラ島へ 流布した仏教の性格を7世紀中頃から9世紀 初期に限り、中国歴史資料や漢訳經典など から考察した。これらの考察により、東南 アジア地域における仏教の流布形態が明確 になり、同地域で後に盛隆する密教の性格 の解明の大きな手がかりとなった。		9頁
(論文) 2 『インドネシアの密 教』		平成3年3月	修士論文	歴史資料の考察をはじめ、現地調査し入手 した図像資料を中心とする諸資料に基づ き、インドネシアに流布した密教の流布形 態や性格について主として図像学の立場か ら考察した。		
(論文) 3 「チャンディ・ムン ドゥーの八大菩薩」		平成3年3月	『密教文化』 174号 (査読有)	ジャワ島に現存する八大菩薩の遺品につい ての図像学的考察。インドおよびその周辺 地域に現存する八大菩薩の遺品の特徴や儀 軌に説かれる八大菩薩の像容の特徴を整理 しインドネシアの八大菩薩の遺品と比較考 察し、インドネシアの八大菩薩の性格を考 察した。この考察により、胎蔵系曼荼羅の 主要な構成要素である八大菩薩を手がかり とし、胎蔵系曼荼羅の研究を一歩進めるこ とが出来た。		35頁
(論文) 4 「光背五仏について」		平成5年1月	『高野山大学 密教文化研究 所紀要』6号 (査読有)	インドネシアに流布した密教の源流とも言 えるインド東北部のパラ朝期の遺品に見 られる光背に施された五仏の特徴・配列を 図像資料を基に、整理考察した。この考察 は密教文化研究所のパングラディッシュ現 地調査で得られた資料からの考察である。 これまで、仏像の光背に施された仏像に関 する研究はなく、密教教理の解明に大きく 寄与できた。		20頁
(論文) 5 「九分割配置の八大菩 薩 --エローラ石窟 を中心として--」		平成5年12月	『印仏研』 42-1号 (査読有)	オリッサ地区と同様にインドにおいて八 大菩薩の遺品が多量に現存している西印 ドのエローラ石窟に見られる八大菩薩の 遺品の特徴について考察した。エローラ 石窟に現存する八大菩薩の遺品は、密教 經典、儀軌の記述に符合する部分も多く 、八大菩薩の研究を大きく前進させた考 察である。		3頁
(論文) 6 「インドネシアの金剛 界曼荼羅--ガンジュク 出土のブロンズ像--」		平成6年12月	『密教図像』 13号(査読有)	ジャワ島東部から出土した金剛界曼荼羅 を構成する青銅像群に関する図像学的考 察。金剛界曼荼羅を説く諸經典儀軌の像 容記述を整理・分類し、これらの青銅像 群の特徴と比較考察した。また、ジャワ 島現存の金剛界曼荼羅の性格や製造年 代について考察した。これまで、このよ うなまとまった形での青銅製の曼荼羅尊 像群が発表されたことはなく、大きな研 究成果である。		22頁
(論文) ⑦ 「『サマーヨーガタン トラ』の金剛薩埵族の 曼荼羅 --中部ジャワ スロチヨロ出土の青銅 像--」		平成8年10月	『密教図像』 15号(査読有)	新出資料であるジャワ島中部で出土した 青銅像群の像容の特徴を整理し、『サマ ーヨーガタントラ』に関する注釈書・儀 軌に説かれる像容記述の特徴と比較考 察し、これらの青銅像群が「金剛薩埵族」 の曼荼羅を構成することを指摘した。こ のような「母タントラ」に属する曼荼羅 尊像も密教の流布したいかなる地域にも 発見されず、図像学の領域において多大 な成果を残すことが出来た。		14頁

# 教育研究業績書

氏名 松長恵史

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表の年 月	発行所、発表 雑誌又は発表 学会等の名称	概 要	編者・著者名 (共著の場合のみ 記入)	該当 頁数
(論文) ⑧ 「Some bronze statues of mandala excavated from Java」		平成10年3月	『高野山大学 大学院紀要』2 号(査 読有)	ジャワ島より出土した金剛界曼荼羅および 『サマーヨーガタントラ』の金剛薩埵族の 曼荼羅を構成する青銅像群の研究成果を国 際的な学術成果の公表を目的として英文で 執筆した。当論文は海外の関係部門におい て高く評価された。		51頁
(論文) 9 「不動明王辞典 経典 編」		平成17年11月	『春秋』473号	主たる研究目的として「インドを源泉とす る密教の流布形態の考察と日本密教への影 響」を進めてきた中で、金剛頂経系の密教 と胎蔵系密教の要素が共に確認できるジャ ワ島を中心とする密教遺跡、遺品から考察 できる密教の性格が、空海が日本に請来し た密教と極めて高い類似性を示すことを論 じた。		4頁
(論文) 10 「インドネシアの密教 は日本密教とつな がる」		平成17年11月	『春秋』473号	主たる研究目的として「インドを源泉とす る密教の流布形態の考察と日本密教への影 響」を進めてきた中で、金剛頂経系の密教 と胎蔵系密教の要素が共に確認できるジャ ワ島を中心とする密教遺跡、遺品から考察 できる密教の性格が、空海が日本に請来し た密教と極めて高い類似性を示すことを論 じた。		4頁
(論文) ⑩ 『密教文化』「空海著 作における「名」の意 義について」		平成26年3月	『密教文化』 232号 (査読有)	空海の言語思想を考察する上で、著作中に 数多くの説かれる声、字、実相等の語句と 共に使われることの多い「名」の記述に着 目し、『声字実相義』および『文鏡秘府 論』に説かれる名の意義に関して考察し た。「聖なるもの」を如何に伝えるかに関 して、「名」が果たす役割を『大日経』の 記述を再確認することから、空海の有して いた言語観について論じた。		17頁
(論文) ⑫ 『密教図像』「ジャワ 島出土の密教尊像の再 考察」		平成27年12月発行予定	『密教図像』 34号 (査読有)	インドネシアジャワ島で出土した新出の四 面大日如来を中心に考察した。また、以前 言及した東部ジャワのガンジユクより出土 した金剛界立体曼荼羅の四方に配される4 つのシンボルに関して考察を加え、そこに 示される四波羅蜜の体系を文献資料より明 らかにした。		14頁
(論文) 13 「スマトラ島の仏教遺 跡 ---ムアラジャン ビ遺跡群の現状報告」		平成28年2月	『高野山大学 論叢』第51 巻	インドネシアスマトラ島中南部に現存する ムアラジャンビ遺跡群の現状報告		19頁
(論文) 14 「空海の言語観」		平成28年3月	『印度学仏教 学研究』第第 64巻第2号	『大日経』『大日経疏』に記される言語に 関する記述を取り上げ、空海著作における 言語観を考察した。		6頁
(論文) 15 「インドネシア新出密教 蹟・遺品の紹介」		平成二十九年三月	『密教学研究』	近年、インドネシアスマトラ島で確認された 密教関連の遺跡の考察と、バリ島出土の 新出の密教遺品、またポノログより 出土した『理趣経』の曼荼羅の考察を行った。		

※著書、学術論文、その他の別で列記してください。枠内の( )の位置は分量に応じて変更してください。